

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会

会議名	第4期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会
日時	平成22年8月24日（火）午後1時30分から3時
場所	宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室
出席者	<p>（委員）</p> <p>森川 知史 委員長、杉本 厚夫 委員長職務代理、奥西 隆三 委員、門脇 洋子 委員、迫 きよみ 委員、向山 ひろ子 委員、弓指 義弘 委員、渡辺 孝明 委員、坂田 耕作 委員、清水 桂子 委員、竹之下 典祥 委員、原 保彦 委員、古川 彩 委員、俣野 良子 委員、六嶋 由美子 委員</p>
	<p>（事務局）</p> <p>澤畑 信広 教育部次長兼生涯学習センター所長、安達 昌子 生涯学習課主幹、久泉 昭人 生涯学習課主幹、原 常能 生涯学習課生涯スポーツ係長、上野 映子 生涯学習課生涯学習係長、谷 泰明 生涯学習課事業係長、森 敦子 生涯学習課主査、佐野 雅俊 生涯学習課主事</p>
	<p>（傍聴者）</p> <p>なし</p>
<p>・前回の会議録について、委員からの意見が特になかったため、公開することとなった。</p> <p>開会のあいさつ （委員長） 8月18日（水）に行われた、教員免許状更新講習は約300人の先生が来られ非常に成果があった。今日はこのことを踏まえて300人の先生の反応などをお話していきたい。</p> <p>（1）報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本中学ボウリング選手権大会について</li> <li>・夏休み子どもフェアについて</li> <li>・第20回紫式部文学賞について</li> <li>・京都サンガF.C.ホームタウン拡大化について</li> <li>・2010ひゅうまんシネマフェスタうじについて</li> </ul>	

(2) 協議事項

- ・コミュニケーションについて

(委員長)

冒頭で述べた教員免許状更新講習について、講習の最後に合否を決めるテストをし、最後の一問は感想を出題した。

講習の冒頭で、「聞く」ということについてお話したのだが、出席者300人中250人は、普段「聞く」ということについてあまり考えたことがなかったので、ずいぶん考えさせられたと回答した。

今回の感想の結果を受けて、「聞く」ということをきちんとお話したほうがよい、とつくづく感じたので、今日はそこからお話させていただきたい。

※別紙参照

(委員)

子と親の関係で、子どもの話を聞くことができない親が多い。それは、先生と生徒の関係も似ている。また、子どもは、親や先生の話を一見聞いているように見えるが、利害関係があるから聞いているフリをしているだけである。

利害関係がない人間（地域の大人などの社会的親）が聞く役にまわってあげないと、今の子ども達の話聞く人はいない。また、聞くことについて、単に相手の話を聞く、傾聴するのではなく、積極的に自分から聞いていくことが大切である。そして、子どもの話を聞く際に、気をつけなければならないのは、相手の過去をもち込まず、今を聞くことである。

(委員長)

コミュニケーション能力は人間関係であり、人との向き合い方である。もともと日本人はコミュニケーションのとり方がうまくない。今まではコミュニケーションの必要性がなかったが、今は上手にならなくてはいけない状況になってきた。なぜなら、今は隣の人が誰か分からなくなっているので、ちゃんと自分を説明し、相手を知らなくてはいけない。そうなると、今まで通りの日本人はお手上げ状態になる。今の日本人はコミュニケーション力が下がったのではなく、昔からそうだったのである。

(委員)

聞き上手、話し上手という話以前に、人との接点を見つけにくいのが、今の世の中の現状である。今後はこういった接点やコミュニケーションの場がよりたくさん生まれる方法を考えていく必要がある。

(委員)

遊んでいる子どもに「〇〇小学校はどこか？」と、尋ねるとその校区の子どもなのに「知らない」と答えた。知らない人に自分のことを教えたらだめだ、という習慣が子どもに身につけており、寂しく感じた。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会

(委員)

子どもが飲食店のカウンターで口に出さず指でメニューを指して注文していた。子どもに聞くと、周りの友達の間では当たり前になっており、ショックを受けた。

(委員)

今では、スーパーに行った際に、レジで口に出して「袋はいりません」と言わなくても、カードを入れるとそれが意思表示になり、店員は袋を渡さない、というシステムになってきている。

(委員)

某ファーストフード店では、商品名でなく番号でも伝わる。

(委員長)

アメリカでは、某ファーストフード店で注文する際に、そのまま商品を注文する人はほとんどおらず、何か商品について注文をつけるのが一般的である。

(委員)

この前の地蔵盆では、人数も増え、良い雰囲気の中で終えることができた。それは、親同士が幼馴染だったので、子ども達も自然と仲良くなり、地蔵盆に来ていた地域の大人と子どもの交流もあったからである。

(委員)

(前回のだっこの話を受けて)だっこはコミュニケーション力が低下する気がする。なぜなら、抱いている子どもの表情や仕草を見たら何を訴えているかすぐに分かるからである。

今、世間では就職難の影響もあり、学生の就職へのモチベーションが低くなっているが、それは子どもが自分で考えていないからである。学生の就職などを支援する大学キャリアセンターで学生と親と話をしたが、私の問いに対して親がすべて答えていることに驚いた。これは小さい頃から親が子どもの代弁をしてきた結果なのではないだろうか。

(委員)

活動の中で様々な方と接するが、地縁などもなく、相手の背景が分からないので、相手の話の中で触れてはいけない話を避けながら話すというものが非常に難しい。

(委員)

現在の社会では、情報がコントロールされており、個人情報保護法などによって、聞いてはいけないことが増えすぎている。地縁があれば別なのだが。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会

(委員)

世の中には、面接の際、就職希望の高校生に対して聞いてはいけないことが多すぎるので、高校生を採用しない会社もある。

(委員)

コミュニケーションと聞くと社会的規制が多すぎる、というイメージがある。

(委員)

避難訓練で支援しなければならない結構な数の要支援者がいらっしゃるが、何かあった時の支援に対して、個人情報の面もあるのでなかなか本人の了承を得ることができない。

(委員)

現在では個人情報などの規制がカベとなって前に進めてない。10年くらい前は3カ月に1回くらい警察が家庭訪問をしていた。

(委員)

(これらの個人情報の話を受けて) これらは、コンピューターの情報化が進みすぎた結果ではないだろうか。現在では、様々な角度から個人情報を入手することができる。

(委員長)

学会名簿について、また復活する動きがあるようだが、個人情報の関係で今はなくなってしまった。住所が載った名簿がないので、教え子からの年賀状が途絶えてしまった。

(委員)

コミュニケーションを必要としない社会のシステムをつくってしまったので、今後は気軽に声を掛けることができるような環境づくりを、身近なことからしていくことが大切である。

(委員)

断水があった時期に、近所の一人暮らしの高齢者に水を届け、そこから交流が生まれた。

(委員)

(上の話を受けて) 足りなさというものが、コミュニケーションをうむのかもしれない。

(委員)

学生が野球をしていて、自分達のコートにホームベースが2つもあるのに、誰も他のコートへ持って行こうとしない。自分さえ良ければいいという発想があったのだろうか。

## 第4期宇治市生涯学習審議会 第8回審議会

(委員長)

今回はアンケート項目まで協議できなかった。次回は協議していきたい。

※お持ちいただいたアンケートの資料については事務局に提出。

(3) その他 (事務局)

- ・近畿大会について <平成22年9月3日(金)>
- ・福島大会について <平成22年10月28日(木)～29日(金)>
- ・平成22年度「源氏ろまん2010」について
- ・「社教情報」第63号の購入について
- ・平成23年度予算要求案について  
⇒次回の審議会で報告する予定。

<次回の会議について>

平成22年10月20日(水) 午後1時30分から

場所：生涯学習センター 2階 一般研修室